

③「尾瀬の高山植物」 1

近藤雅幸（テームリーダー）

山本博（福岡支部）、笠松幸衛（東京多摩支部）、仕名野完治（京都滋賀支部）、染谷美佐子、松島岳生、古閑栄子（首都圏）、金尾誠一（富山支部）、川越尚子（東京多摩支部）、尾瀬高校生徒

導入はグループのメンバーに尾瀬のこと、地元の山のことなど、山の植物をメインに意見を出し合ってもらおうと、小泉武栄先生の基調講演をベースにそれぞれが感じたこと自由に話してもらった。話題はオーバーユースのこと、植生復元のこと、ラムサール条約のこと、など植物にとどまらず、動物や山の自然の管理など多岐にわたったが、その中で特に多かったのは鹿による被害であった。このような分科会ではしばしば本来のテーマから、参加メンバーにとって一番関心のある話題に話が逸れていくことがあるが、この時はその典型的な話の進み方になってしまったのである。ただ、鹿の被害とはいっても、対象は植物であり、植物の種の多様性保護という観点からみる

と、その対策は（山の植物を語るうえで）目を向けなければいけない問題には違いない。

結論をまとめる必要はないと思ったのでとりとめの話に終始したかもしれないが。メンバーにとってはそれなりに有意義な意見交換ができたと思う。

なお、以下にメンバーの主な発言を列挙した。（発言順）

- 昨日歩いてきた尾瀬ヶ原ではレンゲツツジとズミが目についた。
- 巻機山の頂上湿原が人の入り込みで丸坊主になっていたが、ヌマガヤの種をまいてその上にネットをかぶせ、復元をおこなった結果少し植生が復活していた。明日は植生復元の先進地のアヤマメ平が今どうなっているのかを見てみたい。
- 京都の山では増えた鹿に食べつくされて笹がなくなってしまうが、その跡にカタクリが一斉に咲くようになった。
- 尾瀬には5月に来たばかりだが例年より雪が多く、ミズバショウが少なくなったように思った。アヤマメ平はかなり復元されていた。やはり植生復元のため人が入ら

ないようにすることは必要だと思う。

○5月に山ノ鼻と鳩待峠の間で熊を見た。

○小泉先生の基調講演でミズバショウは土があるところにあると知ったが、確かに思い返すとその通りだ。

○ラムサール条約に立山の弥陀ヶ原が登録された。（すでに登録されている尾瀬は）どのような保護をしているのか興味がある。

○尾瀬がどの程度鹿の被害を受けているのか心配。すでに奥日光ではシラネアオイが見られなくなり、鹿が食べない九輪草だらけになってしまった。

○奥多摩の御前山でカタクリのパトロールをしているが、そこでは鹿がカタクリの花をたべている。

○鹿が悪いと言って良いのか。鹿が増えたのも自然なのではないか。

○鹿の被害によって屋久島では絶滅危惧種が本当に消えてしまう恐れがある。

○（雪が多いせいかな）北陸には鹿があまりいない。

○オーバーユース対策のためには入山者からお金を取って入山規制をする必要があるのではないか。